

会 議 録

会 議 の 名 称	第 3 回第 2 次美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定会議
開 催 日 時	令和 8 年 5 月 25 日(月) 16 時 00 分 開会 17 時 40 分 閉会
開 催 場 所	美幌町役場 3 階 第 1 委員会室
出 席 者 氏 名	宮田委員長、伊藤副委員長、原田委員、信太委員、円舘委員、泊り委員、奥山委員、小林委員、滝川委員、小笠原委員、佐久間委員
欠 席 者 氏 名	弥三谷委員、田中委員、野口委員
事務局職員職氏名	中村商工観光課長、午来農業振興主幹、明瀬商工観光 G 主査、矢口商工観光 G 主事
議 題	1 開会 2 挨拶 3 委員の委嘱 4 報告事項 第 1 号 前回会議の結果について 5 協議事項 第 1 号 基本方針及び重点施策について 6 その他
会議の公開又は非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	0 名
会 議 資 料 の 名 称	第 3 回第 2 次美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定会議次第 資料 1 観光資源・観光課題のまとめ 資料 2 アンケートの集約結果
会議録の作成方針	☐ 録音テープを使用した全部記録
	☒ 録音テープを使用した要点記録
	☐ 要点記録
その他の必要事項	

発言者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
中村（事務局）	1 開会 開会挨拶、委員紹介（新規委員～小笠原委員、佐久間委員）
宮田委員長	2 委員長挨拶
小笠原委員	3 委員の委嘱 株式会社パンクチュアル 小笠原委員 小笠原委員による株式会社パンクチュアルの業務説明
	4 報告事項 第1号 前回会議の結果について （資料に基づき内容説明）
	5 協議事項 第1号 基本方針及び重点施策について （委員アンケートの結果説明） （協議事項の進め方について説明）
伊藤副委員長	【美幌峠・屈斜路カルデラトレイル関連】 （農協と連携したい取り組み） ・ 商工会議所としては、地域の一次産業である農業と連携した取り組みを検討していきたい ・ 農協連携について、J Aびほろが実施したい農産品PRとも目的が一致した ・ 観光客を地域外から呼び込むためには、農産品や飲食店を活用したイベントやフェアなどの企画が有効と考えており、観光客の滞在時間延長や地域の魅力向上にもつながると考えている
信太委員	（ガイド人材や体験型コンテンツの事業展開） ・ ガイド人材の不足は大きな課題であるが、まずは安全で持続可能な受入体制の構築を優先する考えである ・ 屈斜路カルデラトレイルの昨年度利用者数は1,740人で今後は利用者の安定的な増加とリピーターの形成を重視した取り組みを実施したい ・ 現在の観光物産協会の体制では、収益事業や積極的なプロモーションに限界があり体制の見直しが必要である ・ 地域住民との調和を大切にしながら、身の丈に合った規模で着実に育てていきたい
小林委員	（冬期間における体験型コンテンツ） ・ 冬期間の美幌峠は景観が非常に良く、今年3月に実施したモニターツアーを通じてその魅力を再認識した ・ モニターツアーは、札幌のアウトドアショップ 秀岳荘の協力を得て、スノーシューや歩くスキーを体験する内容で実施し、今年度以降も継続していきたい ・ 美幌町ならではの冬の観光資源を活用し、地域の魅力向上や道の駅の冬期売上増加につなげたい
滝川委員	（美幌峠や屈斜路カルデラトレイルのポテンシャル） ・ 屈斜路カルデラトレイルには大きな可能性があり、将来的には毎日の

午来（事務局）	ツアー実施もできるポテンシャルがある ・ 昨年の利用者数1,740人は一定の成果ではあるが、旭岳の年間約4万人、黒岳の年間約6万人と比較すると、さらなる利用拡大の余地がある ・ ガイド体制については、必要な研修を受けた人が週末のみガイドを行うような中間的なモデルも存在し、地域やトレイルの実情に合った仕組みづくりを進めることが重要である 【質疑応答】（屈斜路カルデラトレイルの経済効果） 屈斜路カルデラトレイルは昨年1,740人が利用しているが、地域への直接的・間接的な経済効果がどの程度あるのか、また、有料ガイドツアーとして収益化を図るのか、あるいは宿泊を組み合わせた滞在型パッケージとして展開する構想があるのか
滝川委員	トレイルは基本的に無料で利用でき、ガイドツアーや宿泊・飲食などを通じて地域経済への波及効果が期待できる 具体的な経済効果額は把握していないが、トレイル利用者は地域に長く滞在する傾向があるため、積極的に誘致していきたい
信太委員	経済効果の把握は長年の課題であり、統一的な手法による検証や現場での波及効果の調査が必要だと考えている 美幌峠は来訪者数が多い一方で宿泊につながりにくく、経済効果は限定的だが、未開発の観光資源も多く残されているため、今後の重要な課題として調査・検討を進めていきたい
小林委員	昨年は、町民向けの短時間ガイド（1人1,000円）や、屈斜路カルデラトレイル約10kmツアー（1人6,000円・定員20名満員）を実施し、ガイド費用を回収できる成果があった トレイル利用者の約4割が地域外からの来訪者で宿泊利用もあり、町内利用者も温泉や飲食を利用するなど、1人あたり約1,000～2,000円の経済効果が生じていると推定される
小笠原委員	【回遊拠点関連】 （みどりの村利活用） ・ アクセスの良さを強みとしつつ、現状の通過型観光から滞在型観光への転換が課題と捉えている ・ 美幌峠の眺望だけでなく、道東エリアでの周遊や長時間滞在（24～48時間ツアー）を促進し、食や屈斜路カルデラトレイルなど周辺資源と連携させたい ・ 町全体で回遊性を高め、滞在時間と消費の拡大につながる仕組みづくりを進めていきたい
円舘委員	（夜間観光モデルのイメージ） ・ キャンプ場やグランピング施設では夜間コンテンツの充実が重要であり、みどりの村での天体観望会をはじめ、今後パンクチュアルさんと連携して実施可能な夜間プログラムの内容を検討する必要がある ・ 美幌の星空を町内外に紹介することで宿泊時の体験価値向上と自然環境への意識向上につなげていきたい ・ また、教育分野における連携についても同様に協議を進めていく必要があります。
幸田委員	（美幌峠から街中に誘導するためのアイデア）

佐久間委員	・ 観光客を美幌町内へ誘導するためには、魅力的なコンテンツの育成と戦略的な情報発信が重要である ・ 美幌峠の揚げ物など具体的な「売り」をバス車内で効果的にPRすることで購買や立ち寄りを促すことができる ・ 観光客は事前に食・文化・宿泊・夜景などを調べて行動を決めるため、町全体で魅力を整理し発信することが必要である (みどりの村との連携) ・ 指定管理業者が変わったことで、これまでみどりの村で実施してきた取り組みが今後も継続できるのかと気になるところであるが、パンクチュアルさんは非常に柔軟な対応をされる会社だと認識している ・ 用事がなくても足を運び、関係性を深めて、気軽に相談できる関係性を構築していただきたい
奥山委員	【地域資源関連】 (峠の湯のイベントやコラボ事業) ・ 依頼があればイベント等を柔軟に受け入れることが可能で、これまでモルック大会の開催やキッチンカーの誘致などを実施している ・ 広い駐車場を活用し、サイクリング協会が美幌峠への拠点として利用するなど、各団体と連携しながら運営している。
泊り委員	(イベントによる販売会、町内飲食店とのコラボ) ・ 北海道物産展への出店やイベントへの商品提供、町の収穫感謝祭などには参加していますが、観光客向けイベントへの出展は未経験であり、今後機会があれば取り組みたいと考えている ・ アスパラ・じゃがいも・玉ねぎなどの食材提供を中心に展開したいが、食材は旬や期間の制約があるため、通年での取り組みは難しく、まずは期間限定での実施から検討したい
原田委員	【全体を通しての意見交換】 (カルデラトレイルの利用方法) 冬季ツアーやイベントの設定、峠牧場をバックカントリー練習場として開放、峠駐車場で宿泊型イベントなど、利用者を増やす取り組みがある また、美幌独自の観光コンテンツとして、星空・雲海・カルデラトレイルなど時間帯別ツアーの実施も効果的である
伊藤副委員長	(農業との連携) この町は農業を基盤とした地域であり、その農村風景そのものを最大の強みとして位置づけるべきで、農業に付随した観光コンテンツを軸とした地域全体のブランド戦略として「農業×観光」を柱に据える方向性は有力な選択肢だといえる
午来（事務局）	2024年度の道内修学旅行者は約14万3,000人で、その一定割合を美幌町へ誘致することを目指し、関係人口の拡大と地域振興に向けた戦略を検討している スタディーツアーや探究学習の受け入れを進めることで交流・関係人口の増加が期待され、経済効果が期待できる
原田委員	【質疑応答】(屈斜路カルデラトレイルの経済効果) 「インバウンド対策は道の駅の話なのか、それともいろいろな場面での課題なのか

信太委員	2030年までにインバウンドを1,400万人に増やす目標があり、これにより美幌峠をはじめ地域への来訪者が増え、町内での滞留も想定されるため、インバウンド対策は地域全体で協力して検討していく必要がある やはり英語を話せるガイドさんは喜ばれ、対応できるガイドを育てるのも大事だと考えている
宮田委員長	6 その他 (次回に向けた進み方の整理について説明) 7 閉会 (委員長による閉会挨拶)